

図書館だより



武雄高校 図書指導部
令和 6 年 9 月 9 日発行
第 7 号

今回の図書館だよりは2年2組図書委員石橋美羽と谷口未侑が作成しました

夏の終わりを意識してセレクトした本ですが、残暑が厳しいです。
でもエアコンの効いた部屋で読めば初秋の気分で読める

☆おすすめの本 Select☆です。季節は季節、本は本（開き直り）。

●どれも図書館にあるので、手に取ってみてください。

『コーヒーが冷めないうちに』【川口 俊和】（サンマーク出版）

紹介文！！



人生の中で一度だけコーヒーが冷えるまでの間、
未来や過去にいける喫茶店がある。細かく面倒な
ルールの存在でほとんどの人は諦めてしまうが、
それでも過去に戻りたい、未来に行きたいと
願う人々の切ない物語。きっと心が温かくなる

『冷たい校舎の時は止まる』【辻村 深月】（講談社）

あらすじ!!



雪の降るある日に大学受験を控えた男女8人が校舎に
閉じ込められる。8人は普段から仲のいいグループで
あったが一人どうしても思い出せない仲間がいる。
閉じ込められた原因はその1人であると推測した。
ここから始まる物語。手が止まらないミステリー…！

『汝、星のごとく』【風良 ゆう】（講談社）

紹介文！



恋愛体質な母を持つかいとあかみが惹かれあい、
すれちがい、また共に生きる心温まる愛の物語だ。
自由に生きたいのに周りのいろいろなことに影響
されてしまう二人に、つい感情移入してしまう。
美しいだけじゃないけど、確かに愛しい愛の物語。

『夜のピクニック』【恩田 陸】（新潮文庫）

あらすじー！



全校生徒が夜通し 80 キロを歩きつくす「歩行祭」。
喜子は学校生活の思い出や夢を友人たちと語らう。
歩きながら喜子は胸の中である「賭け」をしていた。
高校生の繊細な感情を描いた、たった一夜の壮大
なものがたり。

これから小説を読もうとしているきみへ

本を読みたいけど何がいいかわからないというそのあなた！
選び方を紹介します。

- ・売れている小説からよむ ⇒ 人気があるということは多くの人が面白いと感じる
ということ。ベストセラーには意味がある。
- ・ジャンルから選ぶ ⇒ ホラー小説（自分のペースで読める。怖くなったら閉じる）
歴史小説（歴史好きな人に。いや、むしろ歴史を好きになりたい人に）
恋愛小説（大恋愛中の人に。いや、むしろ過去の大失恋を忘れたい方に）
SF 小説（ワクワクストーリーを楽しみたい人に。小さい頃ドラえもんを愛読していた人に）
ミステリー小説（なによりも伏線回収に快感を感じる人に）
ファンタジー小説（不思議な世界観） ライトノベル（読みやすい）

☆☆ 暑さを乗り切れ 食の本のコーナー設置 ☆☆

災害級の暑さと言われる今年の夏。そんな暑さに負けない
身体を作るにはまず食べること！
ということで食に関する本のコーナーを設置しました。

『三流シェフ』	(三國清三)
『私は料理で生きていく』	(仲山今日子)
『一流の本質』	(クックビズ(株))
『十皿の料理』	(齊須政雄)
『つくる たべる よむ』	(本の雑誌社)
『食いしん坊のお悩み相談』	(稲田俊輔)
『ハコウマに乗って』	(西川美和)
『「人の期待」に縛られないレッスン』	(中島美鈴)
『バッタを倒すぜアフリカで』	(前野ウルド浩太郎)
『わからない』	(岸本佐知子)
『方舟を燃やす』	(角田光代)
『夢を叶えるために脳はある』	(池谷裕二)
『あなたを疲れから救う休養学』	(片野秀樹)
『おいしいごはんが食べられますように』	(高瀬隼子)
『ダメ女たちの人生を変えた奇跡の料理教室』	(キャスリーンフリーン)

図書館だより 第3号と第5号で紹介した本が入荷しました。

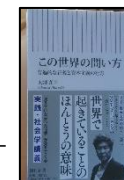
第3号	『名画で学ぶ主婦業』	田中久美子【著】	(宝島社)
第5号	『凜として弓を引く』	碧野圭【著】	(講談社)
	『マイナス・ヒーロー』	落合由佳【著】	(講談社)
	『跳べ、暁』	藤岡陽子【著】	(ポプラ社)

新着図書案内

『この世界の問い方 普遍的な正義と資本主義の行方』

大澤真幸【著】(朝日新聞出版)

権威主義体制であるロシア、中国の挑戦を受ける西欧諸国。
経済でも中国の権威主義的資本主義の方が優勢に見える。
このまま自由・平等という普遍的価値は損なわれるのか？そ
して、流動化する世界の中で、日本はどうすべきか。世界をゆるがす
問題の核心に斬りこみ、「目指すべき未来の姿」を大澤社会学が問う。



『さきがたり ときをためる暮らし』 つばた英子 しゅういち【著】(文藝春秋)



朝は一杯の野菜ジュースで始まり、キッチンガーデンで野菜
や果物を育てる。手作りベーコンで絶品おもてなし料理。自然
の恵みを楽しみ手間暇を惜しまず、日々の生活を愛しむ夫妻は
「人生はだんだん美しくなる」をモットーとし、前向きに暮らし
てきた。常識にとらわれず自己流を貫いてきた二人から、次世
代への温かなメッセージ。

『ぎんなみ商店街の事件簿 BROTHER 編』 井上真偽【著】(小学館)

『ぎんなみ商店街の事件簿 SISTER 編』 井上真偽【著】(小学館)

新・読書体験。驚愕の平行ミステリー！

史上初！ひとつの事件にふたつの真実

焼き鳥店『串真佐』の三姉妹が、ぎんなみ商店街で起きた事件に迫る。
同じ事件、同じ手がかりを見ているのに、四兄弟とはまったく違う推理
の展開に…？

